



## シンポジウム開催案内

●平成7年第130回秋季講演大会高温プロセス部会

# 高結晶水鉄鉱石多配合下での焼結鉱製造技術

日本鉄鋼産業を支えてきたオーストラリア産の良質ヘマタイト鉄鉱石資源は21世紀初頭にかけて徐々に枯渇する状況にあり、代替鉄鉱石の開発とともにその鉄鉱石利用拡大技術の開発が必要である。この代替鉄鉱石としてピソライト鉄鉱石やマラマンバ鉄鉱石などが注目されているが、結晶水の含有率が高い事が特徴で焼結操業への悪影響も指摘されている。そこで本シンポジウムでは、高結晶水鉄鉱石の焼結化反応機構、焼結操業および焼結鉱品質に及ぼす影響などの研究を始めとし、同鉄鉱石多配合焼結に関する実機操業解析や新技術開発についての講演を行い、今後の焼結製造における高結晶水鉄鉱石の使用拡大技術に関する討論を行いたい。

1. 日 時：平成7年11月4日(土)
2. 場 所：大阪大学吹田キャンパス
3. 内 容：

座長：田口昇（秋田大） 副座長：川口尊三（住金）

13:00~13:05	挨拶	座長
13:05~13:30	(基調講演) 鉄鉱石焼結プロセスにおける原料設計への指針	東北大素材研 葛西栄輝
13:30~13:55	高結晶水鉄鉱石の焼結反応機構	川鉄鉄研 大山伸幸 他
13:55~14:20	高結晶水含有鉄鉱石を原料とした焼結鉄の製造における粗大気孔の抑制	秋田大鉱山 大友崇徳 他
14:20~14:45	高ゲータイト鉄鉱石の同化挙動とピソライト鉄鉱石仕様技術	日鐵テクノ 肥田行博 他
14:55~15:20	擬似粒子構造設計によるピソライト鉄鉱石の多量使用技術	NKK総研 明石孝也 他
15:20~15:45	高結晶水鉄鉱石多配合時の歩留低下機構	神鋼鉄研 松村俊秀 他
15:45~16:10	高結晶水鉄鉱石多配合下での焼結鉄製造	住金小倉 波多野康彦 他
16:10~17:00	総合討論およびコメント	
17:00~17:10	総括	副座長



## シンポジウム開催案内

●平成7年第130回秋季講演大会高温プロセス部会

# 石炭の加熱および乾留時の物質変化と熱特性

コークス炉リプレースに備えた新製造技術の創出は、コークス技術分野における最重要課題である。新技術として、コークス炉へ装入する前の石炭の予備加熱による石炭改質とコークス炉熱効率改善技術があり、又生成コークスのコークス炉から排出した後の事後加熱によるコークス品質向上技術がある。これら技術においては、石炭およびコークスの加熱下現象を精密に把握し加熱条件を制御することが必須である。

本シンポジウムでは、石炭・コークスの加熱下における物質変化・反応挙動および熱特性を定量的に記述し、モデル化をはかることを目的とした最新の研究成果につき講演を行い、石炭コークス改質を可能とする加熱制御技術につき討論を行う。

1. 日 時：平成7年11月5日(日)
2. 場 所：大阪大学吹田キャンパス
3. 内 容：

座長：三浦隆利（東北大） 副座長：古牧育男（新日鐵）

9:00~9:05	趣旨説明	座長
9:05~9:30	石炭加熱時の膨張収縮現象の力学的解析	京大 東谷公
9:30~9:55	石炭加熱時の物質変化解析	京大 三浦孝一
9:55~10:20	石炭・コークスの分子構造からみた乾留機構	阪大 野村正勝
10:20~10:45	セミコークスの強度発現機構と強度向上方法	九大 坂西欣也
10:55~11:20	石炭加熱時ガス発生速度論的解析	群大 宝田恭之
11:20~11:45	石炭加熱時軟化溶解速度論的解析	東北大 鷹鸞利公
11:45~12:10	石炭加熱下での熱物性値評価	東北大 青木秀之
12:10~12:30	総合討論及びコメント	
12:30~12:35	総括	副座長